

令和元年6月18日現在

機関番号：11101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H06501

研究課題名(和文)健康相談事例研究を通して行う養護教諭志望学生と現職の共同的学习プログラムの構築

研究課題名(英文)Development of a case study-based collaborative research program for Yogo teachers and aspirational students

研究代表者

新谷 ますみ (ARAYA, MASUMI)

弘前大学・教育学部・准教授

研究者番号：40803896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本学習プログラムは、学生に対し教育現場で高度な専門性と実践力を発揮できる養護教諭としての資質・能力の育成を、現職養護教諭にはミドルリーダーとしての力量形成を目指している。両者のキャリアステージを活かして学び合う共同的学习プログラムの実施を試み、学習の効果を質的に分析した。養護教諭の健康相談活動に重要な資質の一つは、子どもの心因性の問題に気づく力であるが、学生と現職養護教諭というキャリアステージが異なった立場である者が、実際に共通の対応・観察を体験し、事例検討を通して省察することは、子どもの心因性の問題を捉える学びを相互補完し、新たな視野を広げ、健康相談の力量形成に資することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

養護教諭養成教育を担う大学教育においては、一体的な教師教育の学びを構築することを目指し、基礎教育の上に、教育実習等学校現場での学びの機会を更に充実させることが重要である。本研究で学生に対して教育現場で高度な専門性と実践力を発揮できる養護教諭としての資質・能力の育成、現職養護教諭に対してミドルリーダーとしての力量形成を目指し、それぞれのキャリアステージを活かして学び合う共同的学习プログラムを開発したが、子どもの心因性の問題を捉える学びを相互補完し、視野を広げ、健康相談の力量形成に効果がみられた。一体的な教員養成研修として各養成大学教育または現職研修プログラムとして活用できる共同学習である。

研究成果の概要(英文)：This learning program aims to develop the ability and ability of Yogo teachers who can exert high expertise and practical ability in the field of education for students. For Yogo teachers, we aim to build up their abilities as a middle leader. We attempted to implement a collaborative learning program that uses both career stages to learn and qualitatively analyze the effectiveness of learning.

One of the important qualities for health counseling activities of Yogo teachers is the ability to be aware of children's mentality problems. Both in different career stages actually experienced common reactions and observations, pondered on their cases, deepened their awareness of each other's children's mental problems, and broadened their new perspectives. It turned out that the ability to respond to a child's health consultation was formed.

研究分野：教育学

キーワード：養護教諭 健康相談 共同的学习 養護教諭志望学生

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

複雑、多様化していく子供の健康課題に対応する養護教諭の健康相談活動に必要な力量は、児童生徒の問題を見極める(診断する)力や対応力、適切な方法を選択し、それを実際に行役できる力、および連携を図る力、あるいは医学的視点や発達の視点をもって洞察し、指導方針を立てる力やコーディネーターの役割を担う力である。¹⁾吉田ら²⁾は、実際の学校現場に学生自身が身を置き、自ら実習生としての相談的対応を試行し、省察してみる臨地実習の体験は、学生の力量形成において重要な意味を持つとしている。本研究は、学生に対しては、教育現場で高度な専門性と実践力を発揮できる養護教諭としての資質・能力の育成を目指し、現職養護教諭にはミドルリーダーとしての力量形成を目指している。子供の健康相談事例をもとに、それぞれの異なるキャリアステージを活かしてディスカッションをする共同的学习は、両者にとってどのような学びや気づきをもたらすかを明らかにし、養護教諭力量形成のためのプログラムとして今後の養護教諭教育として活用できるものであると考えた。

2015年中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」では、養成・採用・研修の連続性を意識した教師教育(teacher education)という観点を踏まえ、養成過程を含む、教員の各キャリアステージに応じた力量形成を重視した制度設計を行うことより一層の教員養成の高度化を図るため、これまでの教員養成制度を十分検証し、その成果と補完しなければいけない点を明確にしたうえで制度設計を行うという方向性が示されている。養成大学の教員は、養成の基礎教育である教育実習等学校現場での学びの機会を更に充実させ、更にはこの一体的な教師教育の学びを構築する役割も期待されていると考え、学生と現職養護教諭の実践研究的な学び合いができるプログラムを構築することが課題と捉えた。(図1)

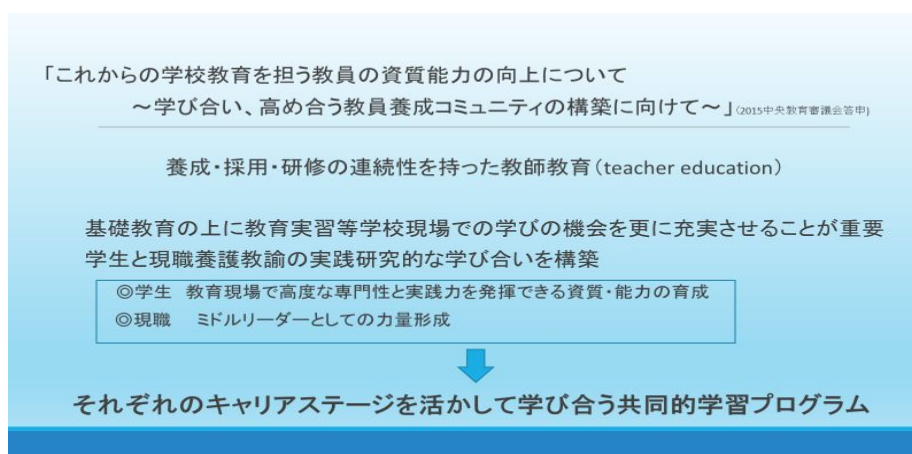


図1 研究目的の明確化

2. 研究の目的

(1) 研究目的

本研究は、養護教諭志望の大学生の実践力向上と現職にある養護教諭のミドルリーダーとしての力量形成を目指して、両者が健康相談の事例研究を継続的、共同的に行う学習プログラムを構築することを目的とする。具体的には、養護実習や学校サポーター実習等において、4年次の学生と当該実習校の現職養護教諭が、インシデント・プロセス法を用いた健康相談の事例検討を行い、両者の力量向上や変容にどのような影響を与えるのかを質問紙やインタビュー等を通して調査し、明らかにする。養護教諭志望学生と現職の両者が、実習などにおいて、共に

対応・観察した健康相談活動(救急処置場面も含む)の事例検討を行う学習プログラムを試行的に行い、両者の会話や記述を分析し、この共同的学习を評価した。

(2) 研究の意義

学生及び現職教員が両者のキャリアステージを踏まえた、専門的に実践的研究として互いに学び合う学習方法を確立することにより、教職大学院を含む大学等と教育委員会が連携した教員の養成・採用・研修に関して具体的教育カリキュラムとして活用することができるものである。

3. 研究の方法

(1) 研究対象者及び調査期間

対象者: A県内養護教諭6名、B大学教育学部養護教諭養成課程学生4年6名の計12名

調査期間:平成30年8月1日～平成30年12月25日

(2) 調査方法及び分析方法

分析方法: A～Cのテキストデータを質的研究法SCATの手法で整理しカテゴリー化を行い、内容分析をした。

A. インシデントプロセス法研修会後の記述記録

B. 対応・観察した児童等の事例検討会の会話録音及び記述

C. 学校支援実習の健康相談活動等の対応記録

(3) 年次計画と実施内容

H29年度 10月…研究計画立案、研究説明会の実施と協力依頼

同年度2月…事前調査(調査概要)

- ・調査対象者の基本的特性
- ・養護教諭像 学生及び現職に、自分の「なりたい養護教諭」(現職においては、「ありたい養護教諭」)等について記述させ分析。
- ・自己評価 学生及び現職に、自己評価調査(弘前大学教育学部「養護教諭に求められる資質・能力」自己点検・自己評価表を改訂)を実施。
- ・学習定着状況 養護学概論(2年前期)、養護学演習(2年後期)等の課題レポート及びテスト等から養護学に関する基礎的・基本的事項の理解度の調査。

同年度2～3月…養護実習事前指導・研修会

- ・学生に対し、実習中に対応した保健室入室児童について記録する方法や倫理上の配慮事項について指導。
- ・インシデント・プロセス法の研修会の実施。専門講師を招いて事例研究の方法であるインシデント・プロセス法について研修。

H30年度7月～8月…養護教諭・学生の健康相談の事例研究方法講習会実施、質問紙調査

同年度9～12月…学校教育支援実習での健康相談の共同的学习(各校)、対応事例調査

同年度1～2月…調査結果のまとめ、研究実績報告書等の作成

(4) 倫理的配慮

対象校の学校長と養護教諭、学生に口答で研究の目的や以下4点について説明し同意を得た。

養護実習中の対応児童生徒の個人情報取り扱いについて、氏名を伏せ、「Aさん」等で記録し、研究に影響しない情報を一部削除または変更することによって(例えば所属部活動を変えるなど)個人が特定されないように配慮する。

養護教諭と学生の事例検討会話録音や保健室環境等の撮影をする際は、当該養護教諭の許可を得て行う。

機器等の取扱いについて学生に事前研修を行い、情報漏洩がないよう研究者が施錠して保管・管理する。

研究結果として公表する際、事前に文書や資料を当該養護教諭及び学校長に見てもらい、児童生徒の特定につながるような記述、データがないかを確認して、承諾を得て行う。

4. 研究成果

(1) 実施した共同的学习プログラム

共同的学习プログラムは、健康相談活動において必要な専門的力量的の向上、大学の養成教育の「見通す力」「解決していく力」「学び続ける力」を育成するという観点も踏まえて、学習プログラムを編成した。インシデント・プロセス法で事例検討の方法の学習をしたうえで、養護実習、学校教育支援実習の中で、学生と現職のディスカッションを中心とした事例検討の時間を設定した。また、学生は、実習の中での気づきや課題について、グループディスカッションを取り入れた省察検討会を実施した。(表1)

	時期・時間	学生	現職	目標 (専門的力)	養成教育カリ キュラムポリ シー(CP)	内 容
1	3年後期講義 1月 90分×2回	◎	なし	アセスメント力	見通す力	科目:健康相談活動の理論と方法 インシデントプロセス法を用いた事例研究方法
2	4年前期実習 4月～5月	◎	◎	アセスメント力 観察力・判断力 実践力	見通す力 解決する力	科目:養護実習 (実習中、各校で行う) 実際の健康相談対応事例(救急処置活動も含む)について事例検討
3	4年前期 8月	○	◎	アセスメント力	見通す力 解決する力 学び続ける力	研修会:第2回養護実習連絡協議会及び研修会 インシデントプロセス法を用いた事例検討研修会
4	4年後期実習 10月～12月	◎	◎	アセスメント力 観察力・判断力 実践力	見通す力 解決する力	科目:学校教育支援実習 (実習中、各校で行う) 実際の健康相談対応事例(救急処置活動も含む)について事例検討
5	4年後期演習 10月～1月 90分×3回	◎	なし	省察力	解決する力 学び続ける力	科目:学校教育支援実習 「省察検討会」 実習の対応事例について協議視点を決め、グループディスカッション、全体協議
6	3月(1回)予定	△	◎	省察力 研究力	解決する力 学び続ける力	研修会:専門家を交えた健康相談事例研修会

記号 ...全員参加 ○...研究対象者のみ参加 ...希望者のみ参加 なし...参加なし

(2) テキストデータを分析し抽出したカテゴリー

会話や記述文書のテキストデータは、内容カテゴリーを抽出し、それぞれ、理解や思考が深まり、学びにつながっている内容カテゴリーを「学びカテゴリー」、新たに疑問や引っかかりや力量不足と感じ、自身の課題と捉えた内容カテゴリーを「課題カテゴリー」として分類した。

A. インシデント・プロセス法研修会後の記述記録

学生の学びカテゴリーは、【子どもの理解の深化】(34)【養護教諭の役割理解の深化】

(31)【事例研究の方法】・【情報収集の視点】(24)であった。課題カテゴリーは、【今後の在り方】(16)【新たな自己の課題発見】(15)であった。

B．検討会の会話録音及び記述

学生の学びカテゴリーとして【問題の気づき】【養護教諭の対応の意図】【対象・問題理解の深化】を抽出した。現職養護教諭の学びカテゴリーは、【自身の対応の根拠】【対象・問題理解の深化】【自身の対応の意図を言語化して他者に伝えることの重要性】があった。

両者は共に対応した子どもについての情報交換を行い、疑問や気づき等を言語化し、共有することを通して学びを深めていた。学生は専門知識に依拠して思考しながら、現実の子どもの状態と養護教諭の対応の意図を理解しようと問いかけが多くあった。また、養護教諭は自らの判断やその背景や根拠となる意図や意味を表出する努力をしていた。実践の場で、対応、観察した子どもについて、情報交換を行い、疑問や気づき等を言語化し、共有することを通して、理解を深めているといえる。特に現職は、学生に問いかけられると、自らの判断やその背景や根拠や意味を表出するように努め、それが自身の対応の振り返りにつながっていた。

C．学校支援実習の健康相談活動等の対応記録

学生の新たな課題カテゴリーとして、【子どもの思いと身体症状の不一致】【対応・支援の優先順位の不明確】【アセスメント・判断の迷い】があることが明らかとなった。理解・思考が深まった学生の学びカテゴリーは【問題の気づき】【養護教諭の対応の意図】【対象・問題理解の深化】であった。学生が新たに課題と感じていたのは、「子どもが痛くてたまらない」というが、傷などなにもないケースなど、子供の訴えと状況が一致しない場合、どう捉え、どう対応していくか、優先順位の迷い、アセスメント判断が現職養護教諭とは異なっていた場合の迷いなどである。また、更に省察会で事例を振り返ることにより、このような課題も明確化、自覚化されていた。実習生として相談的対応を試行し、省察する学びは、学生の力量形成において重要な意味を持つと同時に、現職養護教諭にとっては、「学生に教える、伝える」ということが、自らの実践の言語化し、「省察」へとつながっていることが捉えられた。

(3) 養護実習等の場で行う共同学習の意義

学生の相談活動の力量形成において、養護実習等の果たす役割は大きい。養成機関の8割以上が養護実習を「実際に子供と接する体験学習の場」と捉え、次いで「養護教諭の相談的対応場面を実際に観察する場」「学校という現場の空気をはだで感じる場」「子供の心のサイン、観察のポイントを実際に知る場」と捉えており、「子供の抱える問題を見極め、その対処法を知る」ために必要な体験学習の場と位置付けている。³⁾ 養護実習や研究対象の養成大学において実施されている養護実習後の学校活動支援実習(学校サポーター実習)は養成教育の要であるが、単に観察し、体験するのみで終わらせるのではなく、対応を分析検討することで子供の見立て(アセスメント)問題構造を捉えて、しっかりと子供に向き合う実体験をすることが可能となる。そのような学びの場となるためには、実習の場を、学生が養護教諭の具体的な対応に触れて、養護教諭本人からその思考や意図を聞き、同じ保健室に参加して観察・体験していくことができる場として捉えなおすことが必要である。養護教諭にとっても自身の対応を客観化し分析する力量を向上させることができる機会となっていた。

(4) 養護教諭教育への示唆

通常、養護教諭の力量形成(養護教諭教育)は、養成期間における学びを基にしながら、現場体験を積むことによってなされるものである。しかし、大谷²⁾は、初任期は何事も吸収しようとする柔軟な姿勢がありその学びにより成長が促されるのであるが、大きな不安も抱えているという。ベテラン養護教諭の異動の場合には、教職員との関係や組織に関する不安があるのに対し、新卒者の不安は子供との関わりに関するものが多い。特に、卒業後3年以内の時期には、子供とのかかわり体験で困ったり、無力感を感じる、失敗といえる出来事に出会っているとされる。更に、若い教師は「自己理解」や「自己の在り方」を問い直す時期があり、この時期は養護教諭としてのアイデンティティーのゆらぎを経験し、挫折する危険性をはらむ時期でもある。大谷は、このような事態に備えて、養成教育の段階で養護教諭としてのアイデンティティーを確立すること、あるいはそのための方向性を提示しておくことの必要性を述べている。本研究の結果においても、学生の子供のアセスメントや判断に対する迷いが現職養護教諭との事例検討の中で語られていた。学生は、この新たに生じた自身の課題を自覚的に捉え、率直に現職養護教諭にぶつけている。学生の不安感や迷いを養成教育の段階で正面から取り上げることが、卒業後に出会うであろう危機的な出来事への備えになると考えられる。そして、キャリアステージが異なった立場の両者が事例検討する対話を通して、互いの視点の違いから自己の対応や子供理解について気づかされていた。養護教諭は通常、学校一名の配置が多く、現職養護教諭でも自身の対応の根拠や子供の問題の捉え方について他者に伝えることなく、活動していることが多い。現職養護教諭は、学生に答えるべく自身の活動の意図や根拠を語ろうと努力している。このように自身の考えを学生に伝えるために言語化する必要がある場面では、養護教諭が自己の対応を省察し、養護を自覚的に捉えることに繋がる。

また、この共同学習の目的を、両者が理解し、意識的に行うことは、力量形成(自己教育)の見通しを持たせることにもつながると考えられる。学生と現職養護教諭が、共通の子供の対応・観察を体験し、更に事例検討を通して省察することは、それぞれのキャリアステージに応じた養護実践力や省察力の力量形成になることが示唆された。

<文献>

- 1) 塩田瑠美・大谷尚子他:実践をとおして培われる養護教諭の相談活動に関する力量-力量形成のきっかけとなる「出来事」について-、日本養護教諭教育学会誌第6巻第1号、2003、59-69
- 2) 吉田あや子・大谷尚子他:相談活動にかかわる養護教諭の力量形成 第5報 - 力量形成をめざした養成教育の実態 -、日本養護教諭教育学会誌第3巻第1号、2000、84
- 3) 竹田由美子・大谷尚子その他:相談活動に関わる養護教諭の力量形成 第7報 - 養護実習等の機会を活用した養成教育の実態 -、日本養護教諭教育学会第5巻第1号、2002、39 - 41

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

新谷ますみ、日本健康相談活動学会、第十五回学術集会口頭発表、2018

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等(計0件)

6. 研究組織

○研究分担者及び研究協力者 なし